

日本の出生動向：1994年

小島克久・山本千鶴子

1. はじめに

1994年の日本の出生動向を人口動態統計¹⁾を用いて報告する。出生率の計算方法は以下の(1)~(7)のとおり前回²⁾までと基本的に同じであり、人口動態統計公表統計およびこれに基づく出生率とは、特に(1)、(2)で異なる³⁾。

(1) 出生数は外国籍の出生児を含む日本国内における総出生児数とし、出生率の算定はこれを分子とし、外国人人口を含む総人口を分母とする。

人口動態統計の公表出生数(1994年は1,238,328)は出生児が日本国籍のもの(したがって、父または母の少なくともどちらか一方が日本人であるもの)に限定され、外国籍の出生児(父母の国籍がともに外国, 1994年は10,522件)が除外されている。

父母の国籍(2区分)の組み合わせ別日本国籍出生児数は後出の表2に示す通りで、1994年の日本国籍出生児総数1,238,328のうち父母のどちらか一方が外国人である出生児数は20,376、日本国籍出生児総数のうち1.64%である。したがって、これを含めて分子とし、日本人人口を分母にした場合に出生率は、これを含まない(日本人の父母による)出生児数を分母として計算した場合と比較して1.67%(父外国人で0.57%, 母外国人で1.10%)だけ大きくなる。また、1994年の女性の合計出生率の公表値は1.50⁴⁾であるが、分母・分子に外国人を含めると後述のように1.49となる。

(2) 率の分母となる年齢別人口は、総務庁統計局による推計人口を用いて算出した年平均人口とする⁵⁾。

(3) 男女計の出生率は、各年齢の男と女の出生率を、男と女の人口を重みとして加重平均したものであるが、各年齢別の男女計の人口に対する男と女の出生数の合計の比率である。

(4) 男の出生率において、非嫡出出生数は嫡出出生の父の年齢分布によって按分する。なお、非嫡出出生数は1994年に16,122(うち外国人1,406)で、総出生数1,249千の1.3%で、1993年よりも0.1%高い。

1) 人口動態統計の利用に当たっては、厚生省大臣官房統計情報部の関係各位の協力を得た。ここに記して謝意を表す。

2) 小島克久・山本千鶴子、「日本の出生動向：1993年」、『人口問題研究』, 第51巻2号, 1995年7月, pp.34-40。
山本千鶴子・小島克久、「日本の出生動向：1992年」、『人口問題研究』, 第50巻1号, 1994年4月, pp.60-66。
廣嶋清志・山本千鶴子、「日本の出生動向：1991年」、『人口問題研究』, 第48巻4号, 1993年1月, pp.24-30。
廣嶋清志・山本千鶴子、「日本の出生動向：1990年」、『人口問題研究』, 第48巻1号, 1992年4月, pp.58-65。
廣嶋清志・坂東里江子、「日本の出生動向：1988~1989年」、『人口問題研究』, 第46巻4号, 1991年1月, pp.66-73。

廣嶋清志・坂東里江子、「日本人口の出生力に関する指標：男子、女子および男女計, 1970~1987年」、『人口問題研究』, 第45巻3号, 1989年10月, pp.29-40。

3) 一般公表統計では、出生数は日本国籍出生児数を、分母人口は10月1日の日本人女子人口を採っている。この方法による1994年の出生率は下記参照。

石川晃、「全国人口の再生産に関する主要指標：1994年」、『人口問題研究』, 第51巻3号, 1995年10月, pp.51-59。

4) 注3文献参照。

5) 年平均人口の計算方法は注2文献(1989年)参照。なお、1993年、94年の人口は総務庁統計局の以下の文献による。『平成5年10月1日現在推計人口』, 人口推計資料NO.66および『平成6年10月1日現在推計人口』, 人口推計資料NO.67。

- (5) 女子の14歳以下の出生数（1994年非嫡出25）は15歳に加えた。なお、50歳以上の出生数（1994年3）はそのままとする。
- (6) 父または母の年齢不詳の出生数（父8，母嫡出17，母非嫡出18）はそれぞれ既知の年齢分布で配分する。
- (7) 「既婚合計出生率」(ever-married total fertility rate, ETFR) を計算する。これは、合計出生率 (total fertility rate, TFR) を合計初婚率 (total first marriage rate, TFMR)⁶⁾ で割ったもので、合計出生率のうち婚姻の要因を除き婚姻出生率の動向を表すためのものである。これは、年齢別初婚率と年齢別出生率が一定（初婚年齢別結婚持続期間別出生率一定のための必要条件）と仮定したとき、既婚者が生涯に持つ平均的な出生児数を意味する。したがって、合計出生率は次のように分解される。

$$TFR = TFMR \cdot ETFR$$

2. 全ての年齢で出生数増加

出生数は1994年に1,249千件となり、前年の1,198千件から51千件多くなった（表1）。出生数の動向は、1974年から1990年までの16年にわたって減少傾向が続いた。1991年で増加に転じたが、1992、93年と再び減少が続き、1994年になって再び増加した。

このうち外国籍の出生児数は1994年には10,522件となり、総出生数の0.8%に達した。また、父母の国籍別の日本国籍の出生児数は、統計がとれる1987年以後母外国人および父外国人のものはそれぞれ

表1 日本における国籍別出生児数
Table 1 Births by nationality in Japan

年次	出生児数			割合 (%)		
	総数	日本人	外国人	総数	日本人	外国人
1955	1,746,299	1,730,692	15,607	100.00	99.11	0.89
1960	1,619,175	1,606,041	13,134	100.00	99.19	0.81
1965	1,837,476	1,823,697	13,779	100.00	99.25	0.75
1970	1,947,944	1,934,239	13,705	100.00	99.30	0.70
1975	1,914,707	1,901,440	13,267	100.00	99.31	0.69
1980	1,588,632	1,576,889	11,743	100.00	99.26	0.74
1985	1,437,375	1,431,577	5,798	100.00	99.60	0.40
1986	1,388,878	1,382,946	5,932	100.00	99.57	0.43
1987	1,354,232	1,346,658	7,574	100.00	99.44	0.56
1988	1,321,619	1,314,006	7,613	100.00	99.42	0.58
1989	1,253,981	1,246,802	7,179	100.00	99.43	0.57
1990	1,229,044	1,221,585	7,459	100.00	99.39	0.61
1991	1,231,382	1,223,245	8,137	100.00	99.34	0.66
1992	1,218,265	1,208,989	9,276	100.00	99.24	0.76
1993	1,197,900	1,188,282	9,618	100.00	99.20	0.80
1994	1,248,850	1,238,328	10,522	100.00	99.16	0.84

1985年から改定国籍法（最近改正1993年）が施行された。外国人には非嫡出児（1993年1,074人、1994年1,406人）を含む。外国人の非嫡出児とは母親が外国人であるが、父親が知れないために母親の国籍が付与された子をいう。

6) 廣嶋清志・山本道子、「日本の婚姻率：1970～1987年」、『人口問題研究』、第46巻1号、1990年4月、pp.67-82.

表2 日本における父母の国籍別日本国籍出生児数
Table 2 Births of Japanese nationality by nationality of parents

年次	実数				割合(%)			
	総数	父日本人 母日本人	父日本人 母外国人	父外国人 母日本人	総数	父日本人 母日本人	父日本人 母外国人	父外国人 母日本人
1987	1,346,658	1,336,636	5,538	4,484	100.00	99.26	0.41	0.33
1988	1,314,006	1,302,832	6,615	4,559	100.00	99.15	0.50	0.35
1989	1,246,802	1,234,626	7,390	4,786	100.00	99.02	0.59	0.38
1990	1,221,585	1,207,899	8,695	4,991	100.00	98.88	0.71	0.41
1991	1,223,245	1,207,827	10,027	5,391	100.00	98.74	0.82	0.44
1992	1,208,989	1,191,219	11,658	6,112	100.00	98.53	0.96	0.51
1993	1,188,282	1,169,650	12,412	6,220	100.00	98.43	1.04	0.52
1994	1,238,328	1,217,952	13,414	6,962	100.00	98.35	1.08	0.56

父日本人母日本人には母日本人の非嫡出児（1993年13,665人、1994年14,716人）を含む。

少しずつ増加し、1994年には両方合わせて20,376件で総出生数の1.63%に達した（表1、表2）。しかし、これは夫妻の一方が外国人である婚姻の割合3.28%⁷⁾に比べて非常に小さい。

1994年の年齢別の出生数を1993年と比較すると、男女ともにほぼ全ての年齢で出生数は増加している。また、年齢別の出生率も1993年と比べて男女ともほぼ全ての年齢で上昇している（表5）。特に、1980年以降、出生率の低下傾向が見られた年齢（男では23～33歳、女では20～30歳）で出生率が上昇に転じている（図2）。これは、第2次ベビーブーム世代を含んだ比較的若い年代で出生率が上昇したことによって出生数の増大が見られたものであるといえよう。

出生件数における平均出生年齢は、男は1993年の31.73歳から31.72歳に低下し、女は28.97歳から29.02歳に上昇した。この要因は、男については上記の通り第2次ベビーブーム世代に近い世代の結婚・出産の比重が大きくなっている結果と思われるが、女については、それ以上に平均初婚年齢の上昇が影響しているものと思われる。

長期的な出生動向を女子20～34歳人口⁸⁾の規模、有配偶率、有配偶出生率の動向によって説明したものが表4である。1970～1994年の出生数の変化には、1) 有配偶率の低下、2) 女子人口の減少、3) 有配偶出生率の低下がこの順に寄与していることがわかる⁹⁾。

3. 合計出生率、既婚合計出生率は男女共に上昇

合計出生率は、男は1970～1990年にかけて、2.18から1.47まで低下してきた。1991年にはわずかに上昇した後、1992年以降再び低下したが、1994年には1.48に上昇した。女でも1970年の2.13から1993年の1.45に至るまで低下傾向が続いたが、1994年には1.49に反転した。この動きを反映して、男女計の合計出生率は1993年の1.44から1994年には1.49へと上昇している。

これに対して、夫婦1組あたりの子供数に相当する既婚合計出生率は男は1980～93年に2.15から1.78へ、女は1985～93年に2.15から1.78へと低下してきたが、1994年は男女ともに1.90に上昇した（表3、図1）。

7) 山本千鶴子・小島克久、「日本の婚姻・離婚の動向：1994年」、『人口問題研究』、第52巻2号、1996年4月、pp.??-??。

8) 20～34歳女子の出生数が総出生数に占める割合は、1970年には94.2%、1994年に89.4%である。

9) 1994年の出生数と1970年の出生数の比は次のように20～34歳女子人口、有配偶率、有配偶出生率それぞれの比に分けられる。

$$\frac{1,249}{1,948} = \frac{13,006}{14,211} \times \frac{0.452}{0.628} \times \frac{0.212}{0.218}, \quad 0.641 = 0.915 \times 0.720 \times 0.973$$

詳しくは、注2文献（1992年）参照。

表3 性別合計出生率, 合計初婚率および既婚合計出生率
Table 3 Total fertility rate, total first marriage rate, and ever-married total fertility rate

年次	男 male			女 female			男女計
	合計出生率 TFR	合計初婚率 TFMR	既婚合計 出生率	合計出生率 TFR	合計初婚率 TFMR	既婚合計 出生率	
1970	2.18389	(1.05)	(2.08)	2.12997	(1.00)	(2.13)	2.15603
1975	1.99339	(0.84)	(2.37)	1.90727	(0.89)	(2.14)	1.94907
1980	1.62227	0.75600	2.14586	1.73239	0.84861	2.04144	1.67587
1985	1.61587	0.77868	2.07514	1.78416	0.82950	2.15089	1.67975
1986	1.58916	0.75359	2.10879	1.70865	0.79502	2.14919	1.64671
1987	1.57583	0.73758	2.13649	1.67979	0.77081	2.17925	1.62557
1988	1.55693	0.74618	2.08653	1.64625	0.77509	2.12395	1.59918
1989	1.48978	0.74020	2.01267	1.56256	0.76665	2.03817	1.52387
1990	1.47364	0.75633	1.94841	1.52976	0.77285	1.97938	1.49999
1991	1.48098	0.77530	1.91020	1.52333	0.78947	1.92956	1.50070
1992	1.46209	0.77804	1.87920	1.49207	0.78914	1.89075	1.47562
1993	1.43105	0.80567	1.77623	1.44981	0.81403	1.78104	1.43901
1994	1.48240	0.77955	1.90161	1.49226	0.78669	1.89688	1.48573

既婚合計出生率は合計出生率を合計初婚率で割ったもの。したがって、合計出生率=合計初婚率*既婚合計出生率である。

()内の合計初婚率は、阿藤誠、「出生率低下の原因と今後の見通し」、『人口問題研究』第171号、1984年7月、pp.22-35.

図1 合計出生率, 合計初婚率, 既婚合計出生率の推移
Figure 1 Total fertility rate, total first marriage rate, and ever-married total fertility rate

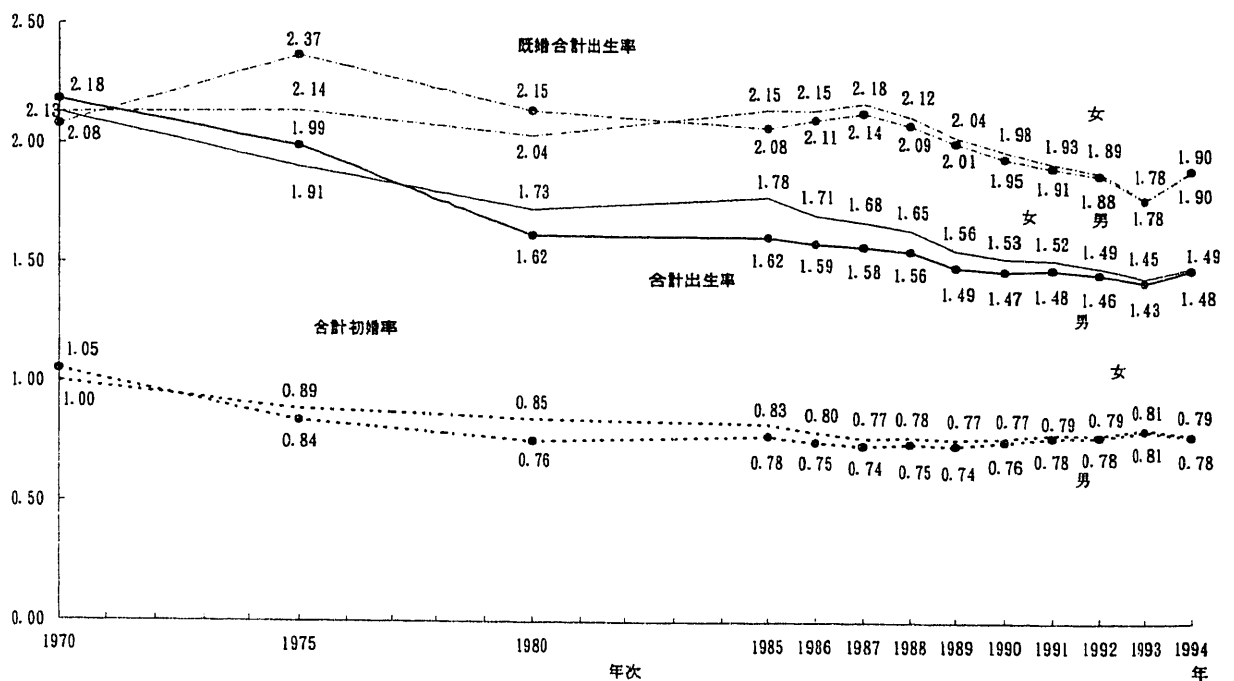


表4 出生数および出生率の要因分解：1920～94年
Table4 Components of births and birth rate

年次	実数 (1,000人)				率					
	出生数 Birth	20～34歳 有配偶 女子人口	20～34歳 女子人口	総人口	粗出生率 CBR	20～34歳 女子有配 偶出生率	20～34歳 女子有 配偶率	20～34歳 女子人口 割合	20～34歳 有配偶女子 人口割合	20～34歳 出生率
	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)／(4)	(1)／(2)	(2)／(3)	(3)／(4)	(2)／(4)	(1)／(3)
1920	2,026	4,720	5,986	55,963	0.036	0.429	0.788	0.107	0.084	0.338
1925	2,086	5,163	6,419	59,737	0.035	0.404	0.804	0.107	0.086	0.325
1930	2,085	5,543	7,107	64,450	0.032	0.376	0.780	0.110	0.086	0.293
1935	2,191	5,834	7,857	69,254	0.032	0.376	0.742	0.113	0.084	0.279
1940	2,116	5,739	8,304	71,933	0.029	0.369	0.691	0.115	0.080	0.255
1947	2,679	...	9,546	78,101	0.034	0.122	...	0.281
1950	2,338	6,689	10,095	83,200	0.028	0.349	0.663	0.121	0.080	0.232
1955	1,746	7,117	11,355	89,276	0.020	0.245	0.627	0.127	0.080	0.154
1960	1,619	7,693	12,079	93,419	0.017	0.210	0.637	0.129	0.082	0.134
1965	1,837	8,408	12,889	98,275	0.019	0.219	0.652	0.131	0.086	0.143
1970	1,948	8,927	14,211	103,720	0.019	0.218	0.628	0.137	0.086	0.137
1975	1,915	9,692	14,497	111,940	0.017	0.198	0.669	0.130	0.087	0.132
1980	1,589	8,907	13,727	117,060	0.014	0.178	0.649	0.117	0.076	0.116
1985	1,437	7,217	12,406	121,049	0.012	0.199	0.582	0.102	0.060	0.116
1986	1,389	6,909	12,103	121,672	0.011	0.201	0.571	0.099	0.057	0.115
1987	1,354	6,663	12,059	122,264	0.011	0.203	0.553	0.099	0.054	0.112
1988	1,322	6,453	12,056	122,783	0.011	0.205	0.535	0.098	0.053	0.110
1989	1,254	6,330	12,139	123,255	0.010	0.198	0.521	0.098	0.051	0.103
1990	1,229	6,111	12,186	123,611	0.010	0.201	0.501	0.099	0.049	0.101
1991	1,231	5,989	12,389	124,043	0.010	0.206	0.483	0.100	0.048	0.099
1992	1,218	5,959	12,570	124,350	0.010	0.204	0.474	0.101	0.048	0.097
1993	1,198	5,954	12,808	124,686	0.010	0.201	0.465	0.103	0.048	0.094
1994	1,249	5,883	13,006	124,966	0.010	0.212	0.452	0.104	0.047	0.096

総務庁統計局『国勢調査報告』、厚生省統計情報部『人口動態統計』による。1955年以降の出生率は外国人および非嫡出出生児を含む。有配偶人口、有配偶率は1986、87、88年は研究資料『わが国女子の世代結婚表：1950～87年』、1989、91年以降は総務庁統計局『労働力調査年報』による。

(1)／(2)：20～34歳女子有配偶出生率は出生がこの女子からのみ発生すると仮定した出生率。

(1)／(3)も同じ。これにより次のように分解される。

出生数：(1)=(1)／(2)×(2)／(3)×(3)、あるいは粗出生率：(1)／(4)=(1)／(2)×(2)／(3)×(3)／(4)。

以上の結果を、出生数について要因分解した表4の結果と比較すると、1993年から1994年にかけて、20～34歳女子有配偶率 ((2)／(3)) は引き続き低下し、20～34歳女子有配偶出生率 ((1)／(2)) は上昇した。前者は合計初婚率、既婚合計出生率の上昇とは逆方向の動きを、後者は同方向の動きを示している。この既婚合計出生率の上昇は、有配偶女子、すなわち夫婦出生率の上昇を示唆しているものと思われる。

4. 年齢別出生率は前年より上昇、女の件数による平均出生年齢も29歳を上回る

1994年の年齢別出生率は、1993年に比べ男女ともほぼ全ての年齢で上昇した。年齢別の分布は1993年と同じような形であるが、1993年と比べて多少上方にシフトしている。男の年齢別出生率の最高値は、31歳で0.12012であった。この値は前年の最高値（31歳で0.11756）よりも少し高い。女の最高値は前年より1歳上がった29歳で0.14363であった。これは、前年の最高値（28歳で0.14137）よりも少し高い（表5、図2参照）。

表5 性、年齢別出生数および出生率：1993, 1994年
Table 5 Births and birth rate by age and sex; 1993, 1994

年 齢	男 male				女 female				男女計 total	
	1993年		1994年		1993年		1994年		1994年	1994年
	出生数	出生率(%)	出生数	出生率(%)	出生数	出生率(%)	出生数	出生率(%)	出生率(%)	出生率(%)
総 数	1,197,900	19.58	1,248,850	20.37	1,197,900	18.87	1,248,850	19.62	19.21	19.99
15	—	—	—	—	126	0.15	135	0.17	0.07	0.08
16	—	—	—	—	590	0.68	616	0.74	0.33	0.36
17	0	0.00	0	0.00	1,804	1.99	1,823	2.11	0.97	1.03
18	1,512	1.51	1,514	1.58	4,449	4.68	4,296	4.74	3.05	3.12
19	4,687	4.48	4,524	4.52	10,678	10.76	10,410	10.97	7.54	7.66
20	9,422	8.97	10,007	9.58	18,420	18.41	18,686	18.86	13.58	14.10
21	14,844	14.45	15,997	15.26	27,463	27.99	28,741	28.79	21.06	21.86
22	20,339	20.36	22,178	21.61	37,339	39.00	38,654	39.43	29.48	30.32
23	27,623	28.47	29,139	29.17	49,597	53.25	51,830	54.17	40.61	41.40
24	37,244	39.45	39,044	40.26	66,750	73.28	68,257	73.37	56.07	56.47
25	49,315	53.28	50,977	54.07	85,510	95.31	86,442	95.02	73.97	74.18
26	58,076	67.15	65,921	71.35	96,016	113.98	105,007	117.13	90.26	93.90
27	66,514	86.08	73,276	84.84	100,827	133.75	109,062	129.52	109.62	106.89
28	86,951	100.13	78,747	102.07	119,936	141.37	107,657	142.96	120.51	122.27
29	90,437	108.93	98,156	113.18	112,463	138.87	121,788	143.63	123.72	128.23
30	94,433	116.89	97,853	118.04	101,528	128.79	106,423	131.51	122.77	124.70
31	92,522	117.56	96,853	120.12	85,863	111.71	91,742	116.47	114.67	118.31
32	87,307	111.76	90,733	115.52	70,432	92.28	75,197	97.90	102.13	106.81
33	81,077	102.59	82,764	106.13	57,165	73.90	60,220	78.96	88.40	92.70
34	73,788	92.59	74,258	94.12	45,073	57.67	47,185	61.04	75.30	77.75
35	62,057	79.74	66,595	83.73	33,173	43.35	36,440	46.65	61.70	65.36
36	52,164	67.22	54,500	70.19	23,440	30.71	25,688	33.59	49.12	52.03
37	43,045	52.87	43,402	56.06	16,881	21.09	17,859	23.42	37.12	39.86
38	34,867	41.58	36,055	44.39	11,787	14.30	12,821	16.03	28.06	30.32
39	26,950	31.53	28,456	34.01	7,929	9.39	8,807	10.69	20.53	22.44
40	21,352	23.53	21,904	25.69	5,280	5.86	5,356	6.35	14.73	16.07
41	16,353	16.97	16,903	18.67	3,390	3.55	3,486	3.87	10.29	11.29
42	12,600	12.23	12,986	13.52	1,951	1.91	2,057	2.15	7.09	7.85
43	9,789	8.76	9,932	9.67	1,120	1.01	1,101	1.08	4.90	5.39
44	7,525	6.29	7,765	6.97	566	0.48	621	0.56	3.40	3.77
45	5,163	4.37	5,830	4.90	229	0.20	275	0.23	2.29	2.57
46	3,274	3.20	4,300	3.66	84	0.08	101	0.09	1.65	1.88
47	1,516	2.04	2,570	2.52	28	0.04	45	0.04	1.04	1.29
48	1,230	1.52	1,327	1.80	11	0.01	12	0.02	0.76	0.90
49	1,078	1.17	1,058	1.31	2	0.00	5	0.01	0.58	0.65
50	705	0.77	856	0.94	—	—	2	0.00	0.38	0.46
51	526	0.57	589	0.65	—	—	—	—	0.28	0.32
52	424	0.48	462	0.50	—	—	1	0.00	0.24	0.25
53	280	0.35	366	0.41	—	—	—	—	0.17	0.20
54	185	0.25	252	0.32	—	—	—	—	0.12	0.16
15-19	6,198	1.29	6,038	1.31	17,646	3.87	17,279	3.96	2.55	2.60
20-24	109,472	21.93	116,366	22.88	199,569	41.74	206,168	42.45	31.62	32.44
25-29	351,293	82.43	367,078	84.01	514,751	123.99	529,957	124.72	102.94	104.08
30-34	429,127	108.27	442,466	110.91	360,061	92.91	380,768	97.61	100.68	104.33
35-39	219,084	53.94	229,007	57.33	93,210	23.32	101,615	25.84	38.75	41.71
40-44	67,619	12.97	69,491	14.30	12,308	2.38	12,622	2.62	7.69	8.48
45-49	12,261	2.62	15,085	3.06	354	0.08	438	0.09	1.35	1.57
50-54	2,121	0.50	2,525	0.57	—	—	3	0.00	0.25	0.28
55-59	516	0.13	507	0.13	—	—	—	—	0.06	0.06
60-64	173	0.05	232	0.07	—	—	—	—	0.02	0.03
65-69	31	0.01	55	0.02	—	—	—	—	0.01	0.01
70-74	2	0.00	2	0.00	—	—	—	—	0.00	0.00
75歳以上	1	0.00	—	—	—	—	—	—	0.00	—
合 計	1,197,900	1,431.05	1,248,850	1,482.40	1,197,900	1,449.81	1,248,850	1,492.26	1,439.01	1,485.73
平均年齢	31.73	31.81	31.72	31.89	28.97	29.20	29.02	29.30	30.51	30.61

出生数、人口に外国人を含む。人口は年平均人口。総数行の率は総人口に対する率。合計行の率は合計出生率。男女計欄の出生数は男及び女の年齢別出生数の計。したがって、男女計の総数行の出生数は出生数の2倍、出生率は粗出生率の2倍。

率による平均出生年齢（出生の発生する人口の年齢構成別人口がすべて同一とした平均）は男では1994年に31.89歳で1980年の30.73歳以来1.16歳上昇した。女では1994年に29.30歳で前年より0.10歳上昇し、1980年の27.76歳から1.54歳上昇した。なお、男の件数による平均年齢（31.72歳）は率による平均年齢（31.89歳）を1993年に引き続いて下回っている。これに対して、女の件数による平均年齢は29歳を上回り、29.02歳となった。これは率による平均年齢（29.30歳）よりも低い（図3参照）。いずれも、第2次ベビーブーム世代による出生の影響が現れたものといえる。

図2 性、年齢別出生率
Figure 2 Birth rate by age and sex

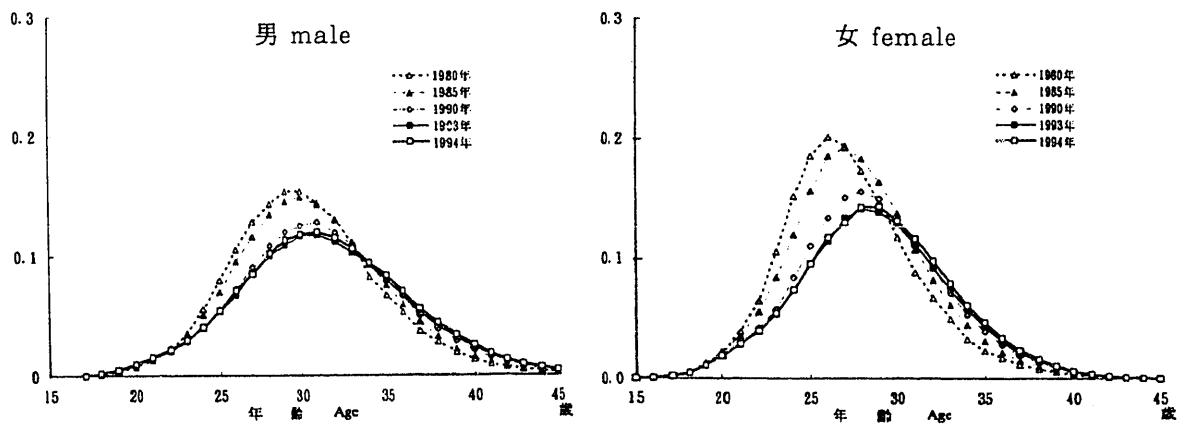


図3 平均出生年齢の推移
Figure 3 Mean age at birth

